



まさい かずこ
政井 和子 氏

生年月日 昭和11年6月21日生

住 所 田辺市中屋敷町

昭和59年(1984年)、紀南文化会館開館記念地元参加行事の開催に向けて、地域の伝統芸能関係者がまとまり、「田辺伝統芸能協会」が設立される。代表幹事の一人として名を連ね、同時に事務局長に就任。開館記念行事『たなべ伝統芸能まつり』の出演者は9分野・12流派・18団体にわたり、会場には立錐の余地がないほどの観客を集め大成功を収めた。

後に設立当時のことを氏は、「プロフェッショナルとアマチュアリズムをどのように融和させるか、伝統芸能と一口に言っても分野・流派によっては千差万別である。この集団が田辺の一つの文化水準を表すものになる」と述懐している。氏はいわば、一国一城の群雄である個性派集団を一つにまとめ上げ、共に進むべき方向性を示すとともに、事業の実施にあたっては、資金集めに奔走しながら、舞台構成を練りタイムテーブルを作成するといった、総合プロデューサー的な役割を担った。

田辺伝統芸能協会は、田辺市文化協会が設立された平成4年(1992年)に、それぞれが単位団体として加盟するため、発展的解散を遂げたが、氏のその思いは田辺市文化協会に受け継がれ、田辺市文化協会が主催する「文協フェスティバル舞台部門」の構成の一端を担い、毎年多くの観客を魅了し続けている。

さらに、「当地域に芸術水準の高い演劇を提供すること」を目的に、昭和61年(1986年)に設立された会員組織による演劇鑑賞団体「紀南文化劇場」、その設立発起人で初代事務局長も歴任した。

また、中央の舞台芸術を鑑賞する機会が少ない当地において、素晴らしい芸術環境を当地にもたらし、よりよい演劇を、より安く、より多くの人々と観劇することをモットーに、芝居、演劇、歌舞伎、ミュージカルなどレベルの高い芸術作品を上演することに尽力した。

紀南文化会館での旗揚げ公演「勸進帳」の実現は、氏の永年の歌舞伎界との人脈があったからこそで、歓迎の幟がはためく中、歌舞伎界の名優達による田辺大通りでのパレードは今でも語り草になっている。

このように氏は、田辺市民のみならず、周辺町村の住民も受け入れながら、伝統芸能・文化の普及に長年にわたり地道に取り組んできた。また、馴染みの少ない古典芸

第 46 回 (平成 27 年)

能等を親しみやすく取り入れる機会を数多くつくり、それを次世代に繋げていく重要な役割も果たしている。

田辺市立図書館司書として奉職した時代は図書購入費も少なく、退職後は将来寄贈するための図書の収集を始めた。『日本の伝統芸能』『義太夫年表』『近代歌舞伎年表』『近松全集』『演芸画報明治篇・大正篇復刻版』『歌舞伎台帳集成』『歌舞伎評判記集成』『鶴屋南北全集』『武智鉄二全集』などを寄贈。南方熊楠顕彰館には『近代庶民生活誌』、中部公民館には『日本の文学』『日本の詩歌』『名作挿絵全集』『日本陶磁器全集』等を寄贈した。

これらの図書資料が市内外の多くの人たちの研究に供されることを氏は願っている。

(学 歴)

昭和 30 年 (1955 年) 3 月 和歌山県立田辺高等学校卒業
昭和 34 年 (1959 年) 3 月 法政大学日本文学科卒業

(職 歴)

昭和 34 年 (1959 年) 4 月 株式会社和歌山放送東京支社
昭和 38 年 (1963 年) 10 月 田辺市役所入庁
昭和 51 年 (1976 年) 6 月 田辺市役所退職
平成 3 年 (1991 年) 4 月 有限会社伯扇閣代表

(役職等)

昭和 59 年 (1984 年) 3 月 田辺伝統芸能協会代表幹事・事務局長
昭和 59 年 (1984 年) 6 月 紀南文化会館運営委員
昭和 61 年 (1986 年) 2 月 紀南文化劇場事務局長 (広報担当)
平成 4 年 (1992 年) 10 月 田辺市文化協会副会長
平成 27 年 (2015 年) 田辺市文化協会評議員